



① 500 経営編



酪農家の決算書の作成

畠山尚史 + 熊谷知之

一年間の経営活動は図1のような流れの中で展開されている。その中で期間中の損益の発生状況と期末における財産状態を損益計算書と貸借対照表の作成で明らかにする。この作業手続きを決算という。これを基に確定申告書を作成し、今期の経営の反省、また次期の経営計画の策定などを行う。

今回は確定申告を前提とした決算の一連の流れについて説明する。

決算は次のような順序で行われる。

- 1) 諸帳簿の年間合計額の計算
- 2) 棚卸表の作成
- 3) 諸帳簿の整理(決算修正と整理)
- 4) 決算書

(損益計算書、貸借対照表)の作成

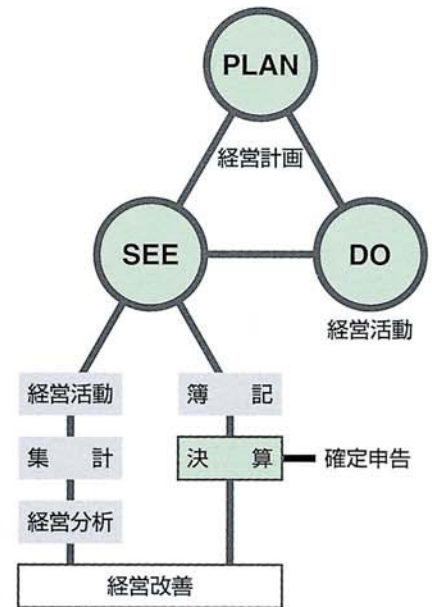


図1.経営のマネジメントサイクル

1) 諸帳簿の年間合計額の計算

諸帳簿の累計を計算するにあたり、記入されている事項をもう一度領収証、納品書、請求書、預金通帳などと照合して記入もれや誤りがないか確かめる。また実際の現金残高とも照合する。現金残高と帳簿残高が符合せず、その原因がわからないときは、超過分は雑収入あるいは事業主借とし、不足分は事業主貸として修正する。

修正が終わり諸帳簿に正しく記入されたら、それらの年間合計金額を計算する。

2) 棚卸表の作成

期末における棚卸を行い棚卸表を作成する。

棚卸の種類としては以下のものがある。

- 1) 原材料：飼料、肥料、農薬、諸材料など
- 2) 仕掛品：立毛、肥育畜、育成畜、サイレージ、乾草など
- 3) 生産物：穀類、果実、野菜など

棚卸の評価方法として

- 1) 原価法：取得原価(取得にかかった総費用)。家畜の評価はこの方法による。
- 2) 時価法：棚卸日の再取得価格(棚卸日時点での価格)。
- 3) 低価法：棚卸日の時価と原価のいずれか低い方。

子牛の棚卸評価は、子牛の出生時の流通(ヌレ子)価格(購入の場合は購入価格)+育成費用とする。

育成牛の棚卸評価は、各地域が公表する基準評価額に沿って記入する。他に簡便法として種付費または素畜費、飼料費を評価額とする。

3) 諸帳簿の整理(決算修正)

すでに記帳された中には、当期の収入や必要経費にならないもの、あるいは記帳されていないものでも当期の収入や必要経費に計上すべきものがある。

年末決算にあたりこのようなものを調べて整理し、正しい金額を記入する必要がある。

(1) 収入金額の整理

①前受金

生産物を引き渡す前に受け取った前受金で、年末現在まだ生産物の引き渡しをしていないものは収入から除外する。

②家事用・事業用に消費した生産物

家事用あるいは事業用に消費した生産物はその金額を見積もり、収入に計上する。

家事用に消費した場合は、その都度記帳するか年末に一括して記帳をする。

事業用に消費した場合は、収入にあげ、同額を必要経費にも見積もる。

(2) 必要経費の整理

①前払費用

保険料の計算期間が翌年以降にまたがる場合のそれに対応する保険料や雇人に対する給料の前払い、材料代の前払いなどの場合には必要経費から除外する。

②家事費・家事関連費

火災保険料、固定資産税、修繕費などのうちに含まれている住宅部分に対応する費用や、水道光熱費、電話料などのうちに含まれる家事分の費用は区分する。(明確でないものは按分する。)

(3) 減価償却費の計算方法

建物、構築費、農業機械、車両運搬具、乳牛は、固定資産台帳に記帳し償却費を計算する。(土地、建設中の固定資産、育成牛などはこれに含まれない。)

減価償却費の計算方法としては次のものがある。

①定額法:定められた耐用年数の毎期に同額の減価償却費を計算する。

償却額 = (取得価格 - 残存価格) × 償却率 (定額法)

②定率法:毎期の帳簿価格に一定率を乗じ、各期間の減価償却費を計算する。

償却額 = 帳簿価格 × 償却率 (定率法)

定率法は、生物以外の有形減価償却資産について、青色申告者で税務署に届出をした場合に限る。

4) 決算書(損益計算書)の作成

決算を行うための修正記入が終わると損益計算書、貸借対照表を作成する。決算書は事業所得のほか不動産所得、山林所得がある場合にはその分についても別途作成する。

表1.損益計算書の書式(報告式)

損益計算書			
□□農場	自○年○月○日	至○年○月○日	
I 売上高			
牛乳販売	XXX		
子牛販売	XXX		
育成牛販売	XXX		
副産物販売	XXX		
その他雑収入	XXX	XXX (売上高の合計) ……………①	
II 生産原価			
家畜購入費	XXX		
購入飼料費	XXX		
自給飼料費	XXX		
雇用労働費	XXX		
家族労働費	XXX		
診療衛生費	XXX		
水道光熱費	XXX		
種付料	XXX		
小農具費	XXX		
諸材料費	XXX		
原価償却費	XXX		
地代	XXX		
賃借料	XXX	XXX (生産原価の合計) ……………②	
売上総利益		XXX (①-②) ……………③	
III 販売費及び一般管理費			
販売手数料	XXX		
運賃	XXX		
共済保険掛金	XXX		
租税公課	XXX		
その他雑費用	XXX	XXX (販売費及び一般管理費の合計) ……④	
営業利益		XXX (③-④) ……………⑤	
IV 事業外収入			
受取利息	XXX		
乳牛処分益	XXX		
固定資産処分益	XXX		
受取共済金	XXX		
奨励金・補助金	XXX		
事業外雑収入	XXX	XXX (事業外収入の合計) ……………⑥	
V 事業外費用			
支払利息	XXX		
乳牛処分費	XXX		
固定資産処分損	XXX		
事業外雑費用	XXX	XXX (事業外費用の合計) ……………⑦	
当期純利益		XXX (⑤+⑥-⑦)	

注) 特別損失は事業外費用に、特別収益は事業外収入に含む。